



次の文は、公共測量におけるセミ・ダイナミック補正及びその関連事項について述べたものである。明らかに間違っているものはどれか。次の中から選べ。

1. セミ・ダイナミック補正とは、現在公開している基準点の測量成果と、測量して得た観測結果との間に生じる定常的な地殻変動に起因するかい離を補正するものである。
2. セミ・ダイナミック補正に使用する補正パラメータファイルは、適用期間が決められている。
3. 定常的な地殻変動によるひずみの影響は、元期からの経過時間や点間の距離が長いほど大きい。
4. 1 級基準点測量において、電子基準点のみを既知点とする場合は、標高補正パラメータファイルを使用したセミ・ダイナミック補正を適用しなければならない。
5. 新点の測量成果は、既知となる基準点の測量成果に補正量を加え、測量計算（網平均計算）を行った後、求められた新しい基準点の位置情報から補正量を差し引くことで求めることができる。

1 ○ / 5 ○

地殻変動による位置関係の変化を補正するために定期的に全国にある測量成果を改定すると、膨大な手間と費用がかかるため、現実的ではない。そこで、地殻変動補正パラメータファイルを使用したセミ・ダイナミック補正を行い、測量を実施した今期（こんき）の観測結果から、「測地成果2011」の元期（げんき）において得られたであろう測量成果を高精度に求めることで、既存の現在公開している基準点の測量成果を改定することなく、現行の成果をそのまま定常的に利用できるようになった。

2 ○ / 3 ○

地殻変動によるひずみの影響は、元期からの経過時間や点間の距離が長いほど大きく、補正パラメータファイルには、適用期間が決められている。

4 ×

セミ・ダイナミック補正は、地殻変動による位置関係の変化を補正するためのものなのであり、高さ方向（標高）の補正をするものではない。また、補正パラメータの名称は地殻変動補正パラメータファイルである。